

◎議事概要◎

(1) 「鳥取市新市域振興ビジョン」の改訂について

○事務局より説明：

このたび、平成26年8月に策定された「新市域振興ビジョン」の改訂を行うこととし、青谷町関係は、「5. 地域別の現状と課題、めざす将来像」「◆青谷町」P30にある「②青谷上寺地遺跡の利活用」箇所を一部改訂します。

【委員】改訂箇所に「史跡公園運営に地域住民の参画」とあるが、具体的なアイデアがあれば、教えてもらいたい。

【事務局】史跡を取り巻く団体の育成に、整備の前段階から取り組むこととします。

【委員】青谷上寺地遺跡の場合、妻木晩田遺跡と比べて、地域住民の結束が弱いように思うがどうか。

【事務局】青谷上寺地遺跡について、初心者の方にも気軽に学んでいただける機会を提供し、関心を高め、史跡公園の運営にも係ってもらえたらと考えています。

【委員】その他の項で、振興ビジョンの「◆青谷町」に、これからのまちづくり対策として「地域福祉力の向上や地域防災力の充実」について取り入れていくべきではないか。これらを追加できないか。

【委員】高齢化や人口減少を憂うのではなく、高齢者の方に優しいまちづくりをしてほしい。

【委員】「5. 地域別の現状と課題、めざす将来像」で他地域には教育、子育ての項目があるが、青谷地域にはない。子育て応援について記載してはどうか。

【委員】新市域振興ビジョンにあたっては、住民と行政の情報の共有化による連携が必要です。振興ビジョンについて質問します。

「4. 地域別の現状と課題、これからのまちづくり」のP14に「公共交通の確保」があり、「利便性が高く効率的な新しい総合公共システムを構築」とあるが、特に高齢化の進む青谷町では、自動車免許を返納した場合に生活に困らないよう、どのように構築するのか。

【事務局】鳥取市南部地域では、先行して3年前からオンデマンドタクシーを導入していますが、青谷町の場合、二つの谷があるといった地理的条件もあり、具体的には決まっていません。

【委員】次に、「◆青谷町 ○観光の振興」P30にある「鳴り砂」を観光の売りにしてはどうか。例えば、「鳴り砂カレー」といったネーミングを使ったカレーをメニューに入れてPRするとか。

【委員】「◆青谷町 ○農業・漁業の振興」P30に「特に果樹園が深刻であり」とあるが、使用されなくなった果樹園が荒廃している。これを片づけて何かをしようとするとお金がかかる。果樹園の活用としてクヌギを植えてはどうか。県の

補助もあるので農協と連携を取って活用してほしい。

【委員】「6. 新たな施策の展開 15 新市域における空き家対策」について、青谷町ではどう取り組んでいるか。

【事務局】空き家対策として、青谷町では、委託を受けた「NPO法人B.F.O.じげ」が空き家調査をしており、青谷町全域の調査を終えています。その結果を市公式ホームページや同団体のホームページに載せています。軒数は、10軒程度です。

【委員】空き家は利活用できなければ意味がない。補助事業でやっているのであれば、情報共有のため調査結果の情報を市報などペーパー等に出すべきである。そうすることが、空き家利活用の次のアクションにつながる。

【事務局】検討します。

(2) 妻木晩田史跡公園視察研修の総括について

○事務局より説明：

むきばんだ史跡公園の年間入場者数は約3万5千人。青谷町観光客入込者数は約4万8千人なので、これに青谷上寺地遺跡整備ができれば、この1.7倍ぐらいになるのではと予想されます。

「平成30年度青谷上寺地遺跡応援団設立事業（青谷上寺地遺跡利活用推進事業）」について説明。

【委員】青谷上寺地遺跡の利活用について知らないとボランティアを募集しても集まって来ないのでは。

【事務局】30年度に史跡整備の基本設計を行い、県の方で住民への説明の機会を設ける予定とされています。

【委員】ボランティア(応援団)の研修については、青谷上寺地遺跡の学習を前面に出すのではなく、ものづくりや体験活動に興味ある人、高齢者やママ友なども対象にした方が良い。また、史跡敷地外のところに直売所やランチが食べられるところがあると人が集まります。

【事務局】史跡整備にあたっては、地域の人が集まって話ができるカフェ的なものが必要との話は整備活用部会でも出ています。

30年度応援団の研修については、青谷地域全体のこと、青谷上寺地遺跡以外の価値あるものについても広く知ってもらい、点ではなく平面的に広げて取り組んでいきたいと考えています。

(3) その他

○体育施設の指定管理制度への移行

○事務局より説明：鳥取市西部地域3町の体育施設指定管理者候補者の選定結果について報告。

【委員】指定管理に関連して、平成28年3月制定の「鳥取市公共施設再配置基本計画」によると、建物の更新等を検討する時期（耐用年数を迎える時期）が、青谷町体育館は2016年からの第1期更新等検討時期に、青谷町トレーニングセンターは2025年からの第2期に該当している。その後の検討状況はどうなっているのか。

【事務局】検討状況についての進展はありません。当面施設は継続して使用します。

【委員】隣接して青谷町体育館とトレーニングセンターの二つの体育館があるが、一つに建替えては。財産経営課の方針を待つのではなく、こうしたことを青谷町として提案しては。

【事務局】検討します。

【委員】指定管理になると今いる職員はどうなるのか。

【事務局】指定管理者が本人の意向を聞いているとのこと。

【委員】指定管理になって不便になることはないか。

【事務局】基本的に利用についてサービス低下がないように調整はしています。

【委員】指定管理になった場合と従来の運営方式の場合の維持管理費を比べるとどうなのかも必要だ。

○その他

【委員】駅前の浜村警察署青谷駐在所の跡地はどうなるのか。

【事務局】公衆トイレ、バス待合所の建物を平成30年度に建築予定です。

【委員】「青谷スポーツクラブ創立10周年記念事業」を2月18日午前9時からトレーニングセンターで行います。記念イベントとして、誰にでもできるリズムミカルな有酸素運動「トランポ・ロビックス体操」もあります。委員の皆さんもどうぞご参加ください。